

「終末期がん患者の家族介護者の精神的健康とレジリエンスの関係に関する研究」へのご協力 のお願い

(2017年3月15日作成)

1. 調査の意義と目的

緩和ケアにおいては、患者さんに加えて、ご家族も医療やケアの重要な対象であると言われています。本研究では、患者さんを傍で支えていらっしゃるご家族の負担や苦痛を少しでも和らげられるような支援プログラムを検討するために、ご家族の負担や苦痛の現状とそれに関係する要因、特にレジリエンス（困難を乗り越える力と言われる心理的特性）との関係を明らかにすることを目的としております。

2. 調査対象：緩和ケア病棟に入院されたがん患者さんの主たる家族介護者

研究機関（担当者）：東北大学大学院医学系研究科（研究責任者：宮下光令、分担研究者：清水陽一）

国立がん研究センター社会と健康研究センター（国立がん研究センター内研究責任者：清水陽一）

ガラシア病院 緩和ケア病棟（施設内研究協力者：前田一石）

3. 調査期間：2017年4月11日～2019年3月31日(予定登録数：研究全体470名、当施設100名前後)

4. 方法：通常診療の中で得られる診療情報の調査とご家族を対象とした無記名自記式アンケート調査を行います。主な調査項目は、アンケートでは、心理状態、レジリエンス、受けた医療に対する体験等で、診療情報からは、年齢、疾患名(がん種、転移の有無と場所)、既往、入院日、退院日、転帰に関する情報です。

5. プライバシーの保護

調査のために集めた診療情報やアンケート用紙は鍵のかかる場所に厳重に保管し、研究期間終了後に、シュレッダーにて廃棄します。分析及び研究結果の公表のために必要なデータを施設から持ち出す際には個人が特定されないように統計的処理を行い、氏名、住所、カルテ番号、生年月日、電話番号等、個人を特定されるような情報については決して施設外に持ち出されることはありません。

6. 調査対象者に生じる不利益

患者さんにおいては、通常診療の中で得られる診療情報を用いた観察研究であり、通常診療で被る身体的、心理的、社会的危害に加えて新たな不利益が生じることはありません。

ご家族の皆様にはアンケートに答えていただくのに30分程いただきます。また、質問内容によっては心理的な負担を感じる場合もあります。そのような場合は途中で回答を中止いただいても構いません。

7. 調査への参加の拒否について

調査への参加を自由に拒否することができます。アンケート調査につきましてはご家族に直接お話をさせていただき同意の確認を行います。ご家族にアンケート調査にご協力いただいた場合、診療情報を利用していただくことについて拒否の連絡がなかった場合は本調査の対象者となります。

よって、もし調査への参加を拒否される場合は、下記の連絡先までご連絡ください。また、何かご質問や説明を受けたいことがありましたら、いつでもご遠慮なくご連絡くださいますようお願い申し上げます。

【問合せ先】国立がん研究センター 社会と健康研究センター健康支援研究部
担当：清水陽一、電話：03-3547-5201（内線：2330）

この調査で明らかになったことは、がん医療・看護のさらなる充実のために活かしてまいりたいと存じます。なにとぞ研究の趣旨をご理解頂き、ご協力いただきますようお願いいたします。